

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

神経ブロックを応用したオピオイドフリーの意識下経鼻挿管アプローチの後ろ向き研究

2. 研究の対象患者

旭中央病院歯科・歯科口腔外科の症例で、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

・選択基準

- 1) 全身麻酔導入時に意識下経鼻挿管を受けた患者さん
- 2) 1)の時点で年齢が20歳以上であった患者さん
- 3) 性別不問

・除外基準

- 1) 知的障害や認知症など意思疎通が困難であった患者さん
- 2) その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者さん

3. 研究の対象期間

2014年4月1日～2023年7月31日

4. 研究の概要

全身麻酔を行うにあたって気管挿管による上気道確保は重要な医療行為である。この気管挿管が困難になることが予想される場合、麻酔科医は自発呼吸を残した状態で麻酔導入を行うことを考慮して、意識下気管挿管を選択することがある。しかし、鎮痛薬（主にオピオイド）、鎮静薬、筋弛緩薬の使用に制限がある意識下気管挿管は、患者にとって負担が大きくなりやすく、特に経鼻挿管は鼻腔をチューブが通過するため、刺激が経口挿管より強くなる。そのため、当院では神経ブロックを応用することで、疼痛コントロールを図り、より患者にとって負担の少ない意識下経鼻挿管を試みているが、その有効性についてはまだ検討されていない。

近年、頭頸部領域の神経ブロックが多数考案されており、その中でも挿管に応用できる上喉頭神経ブロックと経喉頭ブロックが注目されている。それらを組み合わせることで、オピオイドフリーかつ意識下経鼻挿管を受ける患者の負担を軽減できることが示唆されているため、その有効性を検討したい。

本研究では麻酔導入時における患者の不快感に主眼を置き、当院にて意識下経鼻挿管を受けた患者の術後経過および診療録をもとに後ろ向きに調査することにより、神経ブロックを応用したオピオイドフリーの意識下経鼻挿管の有効性について検討する。

5. 研究実施予定期間

2023年9月20日～2024年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者背景：生年月日、年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、入退院日、手術名・手術日、診断名、麻酔時間、麻酔導入時における鎮静薬・鎮痛剤の種類及び投与量、神経ブロックの施行有無及び種類、麻酔導入時の不快感(Visual Analogue Scale: VAS)、声帯の開存の有無

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究結果を研究対象者(又は代諾者)個々に開示することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先）地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 麻酔科 小島佑貴

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)